

## はじめまして。赤ちゃん。

4月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

4月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	満年齢
-----	--------	-----

**内海俳句会**  
 残り鴨水面の雲を掻き寄せぬ  
 浦風に鴨引く空を広げたり  
 落花舞ふ実泡沫の夢の如  
 うつし世の虚実の狭間鴨猛る

**檳榔子俳句会**  
 八十八夜メールの新茶届きたり  
 春や春介護の腕頼もしく  
 八十八夜闘志を内に手甲締む  
 誕生の八十八夜の祝善  
 艶のよき鶏鳴八十八夜かな  
 耕耘機八十八夜の土を掻く  
 春遠と言う名の里の山桜  
 覆蔵のなき輩や豆の花  
 持て余す弧心と孤影豆の花

三好ミキエ  
 吉田 朝子  
 濱野 康子  
 山口 董  
 五島 節子  
 山口 和子  
 田中 博子  
 吉田モミエ  
 井上 論天

岩森十志子  
 太田 信子

**みなみうわ俳句会**  
 頼み事多くてごめん彼岸墓地  
 鶯や一日一日に山響き  
 全開の窓渾身の卒業歌  
 菜の花にめげる心が前を向く  
 約束をもたぬ一と日や水温む

**西海俳句会**  
 一陣の落花我が身を置き去りに  
 鬼は外人の情けの福は内  
 毎年のメンバー高茂へ石路採りに  
 花咲けどコロナ感染おさまらず  
 穴熊の寺を出でゆく春の夕

中川千代子  
 竹村 勝利  
 木村 智子  
 清水 麗子  
 濱 初榮  
 吉田 勝也  
 吉田 笑代  
 浜木チズエ  
 利根早智江  
 吉田 弘定

### ▶俳人をご紹介します

檳榔子俳句会  
 五島節子さん(御荘平城)



昭和初期、南宇和高校の校歌や応援歌の作詞者でもある永田政章らにより発足した「檳榔俳句会」。後に「檳榔子俳句会」としてその流れを受け継ぎ、今年の6月には400回目の句会を迎えます。

私が俳句を始めたのは、観自在寺の庫裏で開かれていた句会に両親が参加していたのがきっかけです。

俳句を作る上で気を付けていることは、この季語は適切かどうかを考えることで、始めて良かったことは草花の名前をたくさん覚えたことです。

※上記情報は、広報紙掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。